



課題4-6 災害後、地域の復興までの長い道のり

1 大きく変わる災害後の暮らし

大規模地震災害が発生した後の生活を想像してみましょう。

○ライフラインが切断されるとどんなことが起こるでしょうか。
ライフライン切断に対し、事前準備、対策等を考えさせる。

- ・断水（消火活動、飲料水・調理用水、水洗トイレ・風呂・シャワー等）
- ・停電（家電製品、信号機、病院の医療器具、銀行のATM等）
- ・情報網（電話・携帯電話、各種のオンラインシステム等）
- ・交通網（物流、輸送、緊急車両、帰宅困難等）

これらへの影響について考えさせる。

○避難所生活とはどんな生活でしょうか。
狭い空間に多くの被災者が集まり、プライバシーも十分に守られない中で生活をしながらはならない。そのことによって、どのような不自由さが生じるのか考えさせたい。

「2 避難所での過ごし方」につながるよう自分が不自由と感じるであろうことを中心にあげさせる。避難所生活が、長期にわたる場合もあることにも気づかせる。

2 避難所での過ごし方

避難所では多くの被災者が集まって不自由な生活を送ることになる。心得ておくことはどんなことでしょうか。

○基本的なルールとマナー
自分が不自由と感じることをもとに、避難所生活で注意すべき点を考えさせる。

- ・まわりの人に迷惑をかけない
- ・集団生活のルールやマナーを守る
- ・他の人のプライバシーを大切にする
- ・健康のために、規則正しい生活をする
- ・お年寄りや体の不自由な人に親切にする 等

お互いに相手を思いやる行動が、結果として、自分自身の生活を守ることにつながることに気づかせる。

○夏場の注意
夏特有の、避難所生活の注意点に気づかせる。
食中毒、熱中症、虫さされ、汗の始末等

○冬場の注意
冬特有の、避難所生活の注意点に気づかせる。
寒さ対策、風邪などの感染症対策

予防策が必要であるが、個人でできること、避難所全体で取り組むべきことに分けて考えさせる。
非常用持出袋の中身、非常用備蓄品は、季節に合わせて検討する必要があることにも気づかせる。
(課題4-5「非常用持出袋」編との関連)

3 災害直後から地域復興への道は始まっています

不自由な生活に不満を言っても始まりません。自分たちの生活をいち早く取り戻すためにも、前向きな気持ちで歩いていきましょう。

○地域復興に向けて、わたしたちにできることは？
(地域の一員、家族の一員として、そして自分のために)

被災後、家族と出会い、避難生活も一段落したら、自分たちにできることを見つけ、前向きな気持ちで取り組んでいくことが大切である。中学生の力は、家族や地域の役に立ち、また、勇気づけることに気づかせたい。

- ・避難所生活で、地域の一員としてできること
- ・わが家に戻って生活を始めるために、家族の一員としてできること

長く続く復興への道を歩いていくためには、精神面が大きく影響する。現実を悲観するのではなく、前向きな気持ちで力を合わせていこうという子どもたちの取り組みは、多くの大人たちに勇気を与えることを強調したい。また、学校へ行って一生懸命勉強することが、自分たちの通常の生活を取り戻すための第一歩ということにも気づかせたい。